

ふくしきり人。



にし の ひかる
西野 光さん
あさひ弁当工房



今回の「ふくし」きり人。」は水戸市にあるあさひ弁当工房で、障害のある方などの施設利用者の方たちといっしょにお弁当の調理や配達の仕事に取り組んでいる西野光さんをご紹介します。

西野さんの勤務するあさひ弁当工房は、水戸市朝日町にある宅配弁当の店舗ですが、普通のお弁当屋さんとは運営の趣旨が異なります。約15年ほど前に医療法人を母体として、主に精神障害や社会活動に不安を持っている方々向けの社会復帰などを目的に設立されたお弁当屋さんです。



きっかけは、高校時代の感激体験から——

そのあさひ弁当工房で働く西野さんは現在、厨房の工房長としてスタッフや利用者さんらを取りまとめるリーダー的存在。入社してまだ3年半ほどながら、現在では調理師の免許も取得し、お弁当のメニューづくりなどのほか、お弁当を食べてくださる取引先へも利用者さんを引率して配達に伺うなど、充実した日々を送っています。

そんな西野さんが福祉の道を志すきっかけとなったのは高校時代のこと。所属していた部活動の一環で、障害者施設にボランティア活動に伺った際、初めて接した障害者の方々の純粋な笑顔に接し、「それまでは障害を持たれる方に対して、よ

肩ひじ張らずに、 『なんくるないさー』の心で



く分かっていなかったかもしれません。ですがそのことがきっかけとなり、（彼らに対する）印象は180度変わりました。もっと彼らと触れ合いたい、福祉について学びたい、将来福祉に関わる仕事にと就きたいとさえ思うようになりました。」と西野さんは当時を振り返ってお話してくれました。

無理は禁物、マイペースを心掛けて——

高校卒業後、福祉専門学校で福祉について学んだあと、知的障害者施設に就職。その後、子育てなどで一旦福祉の現場を離れたものの仕事に復帰する際に選んだ仕事もやはり福祉の仕事でした。

とは言うものの、これまですべてが平坦な道ばかりではありませんでした。特に現在の職場は調理がメイン。「正直言って調理、特に包丁を握ることは得意ではありませんというか苦手でした。ですが持ち前の明るさでなんとかなる（笑）と思いチャレンジしたんです。」と西野さん。チャレンジ精神がとても旺盛なんですね。（笑）。と言うのも西野さんのモットーは「なんくるないさー」。沖縄の方言で「なんとかなるさ」の意味。プライベートでは沖縄が大好きで沖縄には何度も訪れたことがあるとのことで「沖縄の温暖な環境、そしてのんびりとした時間が流れる雰囲気が大好きなんです。」と語る西野さん。その沖縄から学んだなんくるないさー精神が現在の仕事へプラスに大きく作用していることは間違いなさそうです。



明るく笑顔がはじける西野さん

りませんが、とにかくやってみればどうにかなっちゃいます。きっとやって良かったと思えることがあるはずです。配達先のお客様から頂く『美味しかったよ』の言葉、利用者さんの『仕事して楽しかった』の感想など、ほかの仕事では得られない充実感はこの仕事ならではのものです。」と西野さんは屈託なく笑ってお話しされました。

明るい笑顔が”きらり”輝く西野さん。家に帰れば6歳、5歳と年子の二人の女の子のママさん。職場だけでなく、ご家庭でも明るい笑顔に満たされていることは想像に難くありません。今後もそのなんくるないさー精神を心掛け、職場に家庭に明るい風をもたらししてくれることでしょう。

まずは一步を踏み出すことが大切——

そんな西野さんに福祉の仕事で大切なことは何かとお聞きしたところ、「明るく元気、そして前向きに取り組めること」とポジティブな答えが返ってきました。「特に福祉の仕事に挑戦してみようかなと考えている方には、まずは一步踏み出してみ、とお伝えしたいです。」と西野さん。「私自身、我慢強く自らを厳しく律して行ける強い人間でもありません。むしろ弱い人間だと思っています。でもなんくるないさー（笑）ではあ



他のスタッフや利用者と協力して調理します



「美味しかったよ」の声がやりがい